

# 400年間引き継がれたオラシヨの祈り

# 世界遺産 トピック



▲生月町吉部地区の「ゴシヨウ人」

2月16日、天草ロザリオ館（天草町大江）で潜伏キリシタン信仰のお祈り「オラシヨ」が実演されました。披露したのは長崎県平戸市生月町吉部地区の「ゴシヨウ人」と言われる4人。教本などを一切見ずに30分ほどの祈りを唱えました。

キリスト教が禁止されていた250年間は、教会の指導から完全に切り離されていたため、継承された信仰形態は、それぞれの地域で独特なものとなっていきました。

オラシヨには教本などはなく、暗唱の形で引き継がれ、師匠から認められたゴシヨウ人だけが唱えることを許されてきました。禁教が解けた

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録では、史跡や信心具、集落構造などさまざまな観点で歴史的価値が証明され世界に認められました。しかし、潜伏キリシタンに関する歴史資料は、禁教時代には表向きは存在してはいけなかったものであり、わずかな資料が残るのみ。

そのため登録にあたってはオラシヨのような民俗的伝承がかつての潜伏キリシタンのようすを知るうえで重要な証拠になりました。

後カトリックには改宗せず、先祖が守ってきた信仰を継承。このためオラシヨは400年前のカトリックのお祈りと非常に似ているといえます。



「民俗的伝承が歴史的価値を証明する基軸に」



## みなさんに「笑顔」を届けます

平成9年に誕生した「こっば劇団」という劇団がある。

「特技を活かして何かボランティアをしたい」と、もともとコーラスのサークル活動をしていた木崎眞美子さんが中心となってできた。現在団員は7人で、オリジナルの劇や歌、踊りを敬老会などのイベントや施設などで披露している。

こっば劇団という名前は「嘸めば嘸むほど味のある劇団に」という思いから名付けた。

この劇団のモットーは、演じる方も観る方も「一緒に楽しむ」こと。観客も巻き込んだ劇で楽しんでもらっている。

そんな劇団のスタイルが喜ばれ、学校や地域の行事に呼んでもらうことも増えてきた。回数を重ねる中で、失敗もあった。なんと衣装や小道具一式を忘れ、出演先の施設にあるものを借りて演じ切ったという。「失敗も笑いに変えてしまおうよ」と思い出し笑いの団員の皆さん。

劇団の活動とは別に、「もっと地域のために何かできれば」と、団員で訪れた人をもてなす「めいどサロン」なそこ吉野屋」を平成27年にオープン。地元の野草料理をふるまい、市内外から訪れるお客さんの思い出作りのお手伝いをしている。

食事だけではなく、サプライズで寸劇を披露し、この劇団ならではのやり方での歓迎も魅力のひとつ。

「お客さんの喜んでくれる反応が何より楽しい」と話すこっば劇団は、人との触れ合いを大切にしつつ、倉岳町から「笑顔」というエネルギーを発信し続けている。

※「こっば」はさつまいもを茹でて干した天草地方の郷土料理。



1 こっば作りからいじめ問題をテーマにした劇「こっば」  
2 客席に入って一緒に演じる  
3 めいどサロンではもちつきや婚活イベントなども。老若男女が楽しめる場になっている



こっば劇団 (倉岳町)

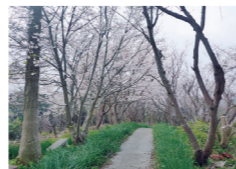
代表の木崎さん  
☎090(4358)4309

## 天草 見どころ図鑑

鶴葉山公園の展望所から望むことができる築ノ島。約300万年前に鹿児島県長島の火山活動で噴出した火山灰や石が堆積して出来た島で、海流で運ばれた砂と石が堆積して出来た砂州が特徴。この一帯はサンゴの群生地ダイビングスポットとしても人気です。

### ★見どころポイント

4月上旬の展望所は約1,000本の桜が楽しめます。



鶴葉山公園 (牛深町)